

「7割経営」の実践

今回からは、「人を生かす経営」を実践している愛知中小企業家同友会の仲間の会社を紹介したいと思います。

有限会社城西（本社名古屋市中西区、古田伸祐社長）はタイヤを専門に扱う会社です。愛知県西部にタイヤセンターと呼ばれる五つの支店を構え、17人の社員で顧客企業の運輸部門や物流業者へ迅速で細やかなサービスを行っています。

ご存知のようにタイヤは冬用タイヤへの交換が始まる11月からの3カ月が繁忙期です。この3カ月は普段の3倍を超える負荷になることがあります。そのため、どのタイミングに合わせて人員を

△△5

経営を人かす

配置するかは非常に難しいところですが、古田社長は「ピークに合わせる。普段は70%の負荷でいい」という方針をとっています。

その方針により、繁忙期が終わった2月は社員の皆さんにしっかりと休みをとってもらうようにするのに加え、普段も有給休暇をとることを奨励

無理なくメリハリをつけて

しているので消化率は100%とのことでした。

この「7割経営」というのは非常に興味深いところですが、渋滞学という学問があります。その権威である東京大学

メリハリ経営を実践する城西（左が古田社長）



一般的に中小企業はギリギリの人数で回すのが当たり前ですし、社員にも普段から「めいっぱい」で働くことを求めています。ゆえ、少し

整はするものの、ほとんど残業はなく、繁忙期以外ではしつかり休みをとり、メリハリをつけています。さらに、城西は愛知県西部に支店を集中させているため、拠点同士がそれほど遠くなく、行き来ができることで、支店長同士が話をして休暇の社員の分を他店から応援できるようにしているそうです。そのため、どの支店に行ってもその機械を操作出来るよう操作方法の研修もしています。

無理なく、メリハリをつけて働く。人を生かす経営のひとつの形だと思えます。

【佐藤 祐一 愛知中小企業家同友会代表理事（羽根田商会社長）】

＝毎月第1・3・5水曜日 掲載＝

